

バレエが教えてくれたこと

中部小・5 高 愛梨

「バレエを通してしよう来仕事のできる人になってほしい。」

わたしの通っているバレエ教室の先生が言う言葉です。バレエを始めた幼稚園の年中の時は、この言葉の意味がわかりませんでした。バレエの先生は、バレエのことだけでなくあいさつや礼儀なども教えてくれます。バレエだけじゃないんだ、と不思議に感じていました。しかし、ずっとバレエを続けてきた今ならこの意味がわかるようになったと思います。

わたしがバレエを始めたきっかけは、一つ年上の幼なじみの友達にさそわれたことです。きん張しながら行った体験教室が楽しくて始めました。しかし、習い始めて一年もたたずに友達が小学生クラスに変わってしまい、いっしょに練習ができなくなってしまいました。とても悲しい気持ちになりました。そのころのわたしは、表現の仕方やバレエのよさがまだわかりませんでした。レッスンに行きたくない時も、何度かありましたが、なぜかバレエをやめたくない気持ちの中心に浮かびました。友達と離れてしまっただけで迷いもありましたがわたしはバレエを続けることに決めました。

四年生になった時、練習クラスが高学年クラスになりました。レッスンの回数は一週間に一回から二回に増え、一回のレッスン時間も長くなり、内容も難しくなりました。自分自身がもっとレベルアップしないといけないと強く感じ、やる気が高まりました。さらに、

幼なじみの友達と同じクラスになり、うれしくてますますがんばろうと思いました。しかし、友達は他の習い事を始めたので、バレエをやめることになりました。また、一年もたたずにいっしょに練習ができなくなっていました。これからいっしょに練習して、発表会で同じぶ台に立つことを楽しみにしていたので、とても悲しかったです。でも、友達が、

「発表会、見に行くよ。」

と言ってくれました。なので、友達の分までがんばって発表会に出ようと決意しました。

今は春にある発表会に向けて練習をしています。

「リトル・マーメイドをやります。」

夏休み前に、先生から発表がありました。わたしは、アリエルの姉役を演じます。発表会は二年に一度あります。

一年生の時の発表会は練習を始めたころ、わたしは、学校で足を骨折し、全く練習ができなくなっていました。足を動かすことができず、数か月間ずっと見学をしてとてもくやしい思いをしました。みんなが振り付けを覚えて、どんどん上手になっていく姿を見ていて、自分だけが取り残された気分になりました。足が治り、動けるようになったらおどれるのだろうか、みんなに追いつけるのだろうか、と不安になりました。もう二度とあんな思いをしたくはありません。けがをしないように生活、練習しなければと思います。常に足のしなやかさを保てるようにストレッチをしたりパーソナルトレーニングにも通って体の使い方を教えてもらったりしています。前回の発表会は三年生でした。演目は、「おやゆびひめ」でわたしは、ひめをさらうカエルの役でした。終わった後、

「悪役のカエルは存在感があつて、よかったよ。」

と、ほめられました。しかし、その時のわたしは、中学生や高校生の姉さんたちに目をうばわれていました。お姉さんたちの手や足、体の使い方、しなやかさにあこがれました。それから、お姉さんたちを見ながら参考にしたり、教えてもらったりして練習をします。少しずつ、お姉さんたちに近づいている気がします。そして、いつかは年下の子たちのあこがれやお手本になれたらいいなと思います。

先生の言葉の意味をもう一度考えてみました。わたしはこれまで、バレエを続けていくかなやむこともあつたけれど、そのたびに、がんばって続けることを自分で決めてきました。自分で決めたバレエを続けるうちにバレエがとても楽しくなり自分のことが好きになつてきました。自分に自信が持てるようにもなってきました。自信が生まれるとさらにがんばれたり、だれかに教えたりすることもできます。これはバレエでなくても、大人になっても同じではないかと思えます。自信をもつて続けていけば、みんなから信じてもらえたり、大事なことを任せてもらえたりするようになるからです。

また、発表会を経験して、練習の大切さ、練習の仕方がわかりました。バレエでは、練習ができるように心と体の準備をして、上手な子を見たり、自分がお手本を目指したりしながら上手くなりました。勉強でも、学校生活でも、自分で努力して、教えてもらって練習を重ねることで、目標にしたことができるようになります。この経験は、これから難しいことに出会ったときに役に立つと思います。

発表会はまだ先です。バレエを通して成長し、すてきな大人になりたいです。